

くすり博物館だより

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY

内藤記念くすり博物館 〒501-61 岐阜県羽島郡川島町 Phone: 058689-2101 Fax: 058689-2197



企画展

薬売りの引札

～江戸・明治・大正時代のくすり広告～

1995年5月2日～11月23日

この企画展では色鮮やかな、昔のくすり広告を87点展示しています。特に、「引札」と呼ばれるものは商店や商品の宣伝を目的に配られた広告です。「引札」の「引」は「客を引く・引きつける」に由来するとともに、「引」に「配る」という意味があるからとも言われています。このように「引札」はお客さまを引きつけるために広く配る紙、つまり「広告物」を意味しています。

この企画展にあわせてくすりの引札など、当博物館の紙製の広告を1冊にまとめました。収蔵資料は、引札・ちらし439点、広告暦26点、絵ピラ（紙看板）202点ありますが、この中から、特に美しい121点の資料をカラー図版でご紹介し、うち29点は読み下し文も掲載しました。

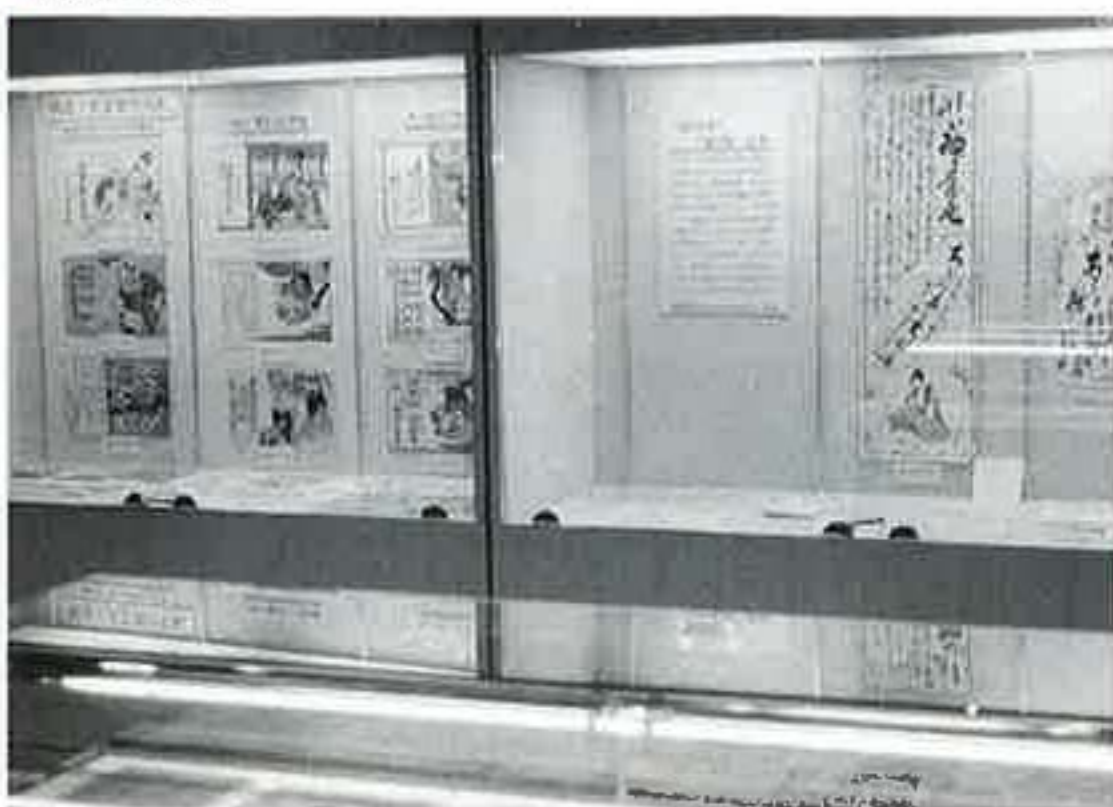
くすり博物館収蔵資料②
くすり広告

(定価2,000円)

▼企画展会場 左手奥には枇杷葉湯（びわようとう）売りの行商用薬箱や道具、売り子の描かれた錦絵広告が展示されています。



▼展示の様子



江戸時代の引札には、文字による商品説明の要素が強く、特徴のある文字を用いたり、戯作者が執筆した口上を宣伝文としたりして、読ませるスタイルとなっているものもあります。

明治から大正時代にかけては、視覚に訴える絵画的なものが多くなりました。それにしただがって、色彩やデザインも凝ったものとなってきました。極彩色の色刷りの上に更に金や銀の色を使ったものもあれば、ぼかしの手法を使ったものもあります。また、空摺（からずり）といって、色をつけずに摺ると立体感が出る手法も用いられるなど、一枚の中に豪華さが集約されているといえるでしょう。

効能を記した引札

(単位；cm)

引札の中には、売薬の効き目を知らせるために長々と口上を述べたものも多く見られます。文字ばかりの引札は一見地味ですが、読んでいるうちについひきこまれて、服用したい気分になってくる…というのを狙っているようです。また、薬によっては1枚の引札中に、効能書を記した部分と共に、自店のほかの製品の広告も記載したものがああります。これは次回購入の際に、合わせて購入してもらえらることを期待して作られているといえます。



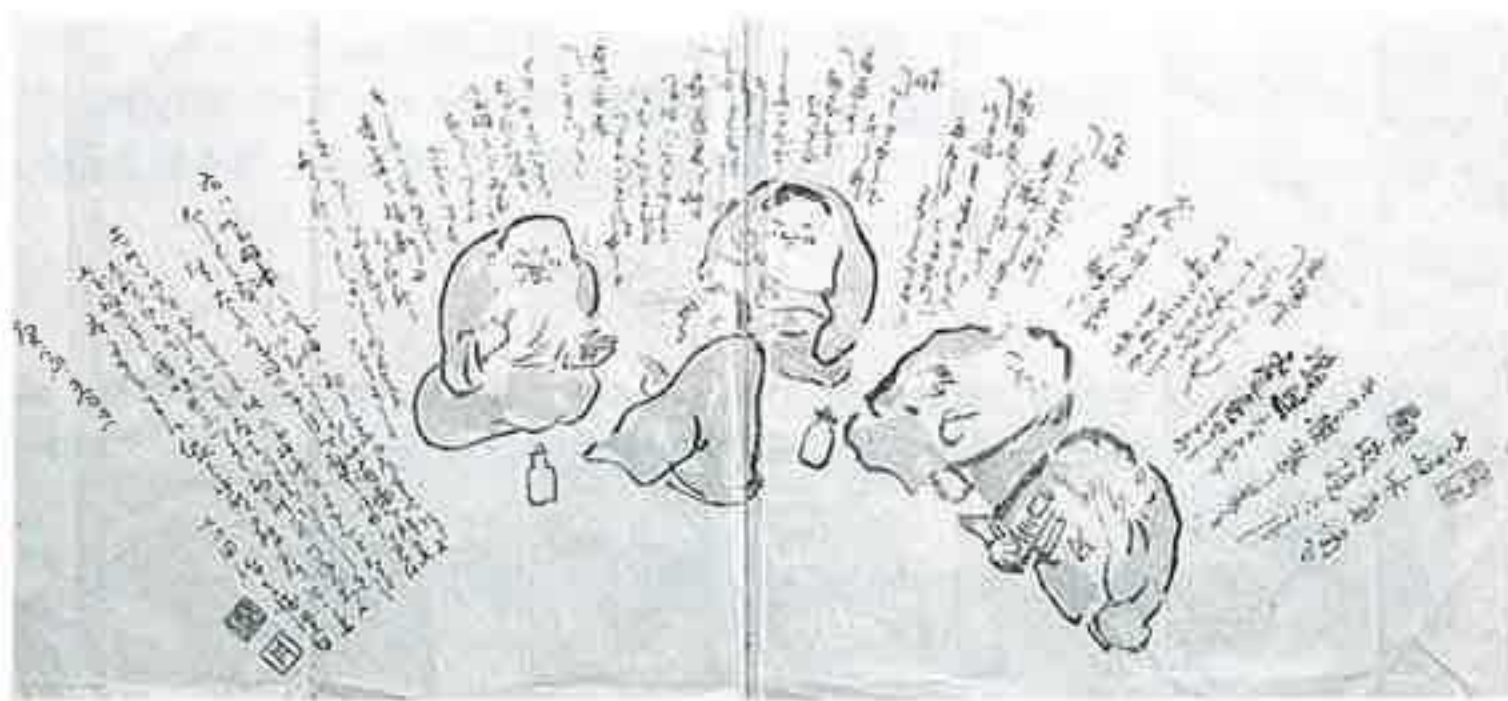
▲【金紅丹 (きんこうたん)】周りに「大和名所道筋略図」として、高野山・法隆寺・春日大社などの名所のほか、製造元の店の様子が描かれています。奈良・堀内三席/明治/48.4×67.4



▲【脾肝薬王円 (ひかんやくおうえん)】表題の薬のほか、「せきの妙薬」の広告が入っています。京都・石田勝秀/明治/35.4×50.7

宝丹流文字が大人気

「宝丹」は上野・池之端の薬として全国にも知れわたっていました。この店の主人・守田治兵衛は、右肩下がりの曲りくねった独特の書体で自ら自店の看板や引札を書いていた。この広告が大変人気となり、やがては他店の広告を引き受けるまでになりました。宝丹の文字を見慣れると、他の店の商品の広告の中の「宝丹流文字」を見ても「宝丹」を思い出す効果を期待したということでしょう。



▲【宝丹水一滴を顕微鏡にたらしその薬勢の最も激烈なるを発見せしところ…】会話調で宝丹水のよさを紹介。扇にできるよう、デザインされている。絵もとぼけた味わいがあります。東京・守田治兵衛/明治25年/18.9×44.0

戯作者・式亭小三馬の書いた引札

式亭小三馬は文化9～嘉永6 (1812～1853) 年の人。父は「浮世風呂」「浮世床」などの著者で知られる戯作者・式亭三馬。小三馬は、三馬と同様戯作のかたわら、自ら商品売り出したり、他店の引札作成の注文を受けていました。



▲【伏稟 (ふくりん) 小問物問屋稲葉重蔵】栃木・稲葉重蔵/江戸/式亭小三馬戯作/一勇斎国芳画/19.9×53.6

▼【改良御白粉】京都・高橋利清／
明治-大正／65.6×23.5



【菊の露・菊の友・隅田の月・百花香】▲
東京・あぶらや天野源七／明治-大正／
69.7×26.1

▼【美晶白粉】大阪・明治-大正／
67.3×25.7



【日本美人】▲東京・平尾賛平／
明治-大正／70.0×25.5

絵ピラ (紙看板)

絵ピラは、木製看板と同様にくすりの名前を大きく表していることから紙看板ともいわれます。人目につくところに貼りました。そのデザインは、商品の特徴にあわせた工夫が見られます。たとえば、売薬の製品名を力強く書いただけのものから、化粧水の絵ピラのように美しいイラスト入りで見て楽しく、また美しくなりたいという女性の気持ちをうまくとらえたものまでいろいろあります。

医薬つれづれ抄(6)

くすり博物館には売薬「ウルユス」に関する資料がいくつか収蔵されています。今回はこの中から、明治初期に作られたと思われるこの薬の実物をご紹介します。これは大変めずらしい貴重な資料です。

「ウルユス」は、大阪の肥後屋丈右衛門が発売した薬で、洋名の売薬のさきがけとされています。その発売の始めは、明和～天明年間(1764-1788)とも文化9(1812)年とも言われています。

『ウルユス弘方心得書(ひろめかたこころえしょ)』には、「上包(うわづつみ)には効能の次第、中包(なかづつみ)は用ひ方の次第、内包は心得の次第…」と書かれており、実物はまさにその通りになっていました。

上包には、「痰留飲積気之症(たん、りゅういん、しゃっきのしょう)」に効果があるとして、49種類もの症状を挙げています。従来ウルユスの効能書とされてきたものは、この上包でした。

中包は使い方を述べています。基本的には、「朝三粒昼三粒夜三粒」を欠かさず14日間用いるように書かれていますが、症状が重い

ときや小児・高令者には効果を見極めながら、加減して用いることを指示しています。そして最後には「薬用いる事足ず(たらず)して薬の功咎る(とがむる)事なかれ」と書かれており、読めば思わ

ウルユス

ず説得されて「続けて飲もう」という気になってしまいそうです。

内包には、使用時に効能書をよく読むよう書かれています。よほ

ど硬い薬剤だったようで、使いづらいときは、口に含んで柔らかくしてから噛み砕いたり、小児・高齢者には布に包んで打ち砕いたものを湯に溶かしたり、煎じて用いてもよいと、丁寧に説明されています。

このように、3枚の包み紙にそれぞれ薬の効能・使

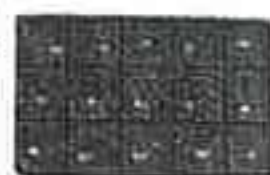
い方・使うときの心得が書かれ、これらの効能書をよく読んでから使ってもらうように工夫されていました。

館長 岩井鑛治郎



▲ [ウルユス上包] /明治/36×48
効能が書かれている薬の包み紙。

▶ウルユス薬品
右の袋に入っていたものです。
5.5×3.2



▼ [ウルユス上包・中包・内包と薬品]
上包を一番上にして、順に中に納められていました。
20×9



薬用植物友の会は

こんな活動をしています

今年度の薬用植物友の会（以下友の会）は、4月より活動を始め、11月まで月1回の作業を行うこととなっている。

主な活動は、①4～5月にエビスグサの種まきとウコンの植え付けを行う、②6月に前年度の会員の方たちが作付けしたカミツレ（ジャーマンカモミール）を収穫する、③エビスグサとウコンの育成作業である。

「育成作業」と一口に言っても、除草も行えば、植物が倒れないように土寄せも行い、散水作業もある。今年の夏も昨年より劣らぬほどの暑さの連続であり、会員の皆さんは、普段はこれほどはとうてい出ないだろう、というくらいたくさん汗を流されていた。

8月に入って晴天つづきで乾燥し、各所で同時に散水を開始するため水道水の水圧が下がって散水器具が作動しなくなることもあった。このようなときはホースで水をやることとなり、当番の方は大変だった。

新聞では、岐阜地方気象台の発表としてこの夏の気温を、「真夏日」



が39日（去年は55日）、35度以上の「酷暑日」が30日と報道。川島工園の記録では、8月の降水量は極端に少なく、22日まではたった3ミリであった。23日以降は3回の雷雨があり、合計60ミリ程の慈雨となったため、極度の乾燥状態からやっと開放された。

以上のように、記録的な暑さと生育繁茂期の雨不足のため、特にウコンの根茎成長に少なからず影響があると思われる。しかし、このような厳しい夏をのりきった今、たくさんの莢（さや）をつけたエビスグサと、なんとか成長してくれたウコンの収穫できる日を会員全員が心待ちにしながら、除草作業に励んでいるところである。

薬用植物園主任
白井 英夫

◆大・小ホールの改良工事を行いました
ご来館の皆さまに映画を見ていただくホールの椅子を取り替え、また大ホールには車椅子の方にもご利用いただけるようスロープを新たに設置いたしました。なお、玄関にもスロープがあり、身障者用お手洗いもございますのでご利用ください。

◆新作ができました
従来より皆さまには、エーザイ川島工園を紹介する映画・ビデオをよくごらんいただいておりますが、このたび川島工園の魅力がより伝わるようにと、自然環境も含めて新たに撮影を行いました。

◆富山の薬売りも衣替え？
くすり博物館では富山の薬売りの等身大の人形の他、新潟の毒消し売り、東京の定斎売り、そして押し出し式製丸器を扱う製薬人の人形を展示してきました。しかしこの四体は古くなり傷みも激しくなってきたため人形本体と装束とも新しく作り直しました。どんな格好で売り歩いてきたか、ぜひごらんください。

なお、富山の薬売りは、滑川市博物館・榎広貫堂・薬種商の館金岡邸・中沢富士男様のご協力を得て、明治時代の姿を再現しました。毒消し売りは大正頃、定斎売りは江戸時代の格好を再現しましたが、押し出し式製丸器を扱う製薬人についてはなかなか資料がなく、一般的な服装といたしました。もし、製薬人について何か資料・文献をお持ちの方がいらっしゃいましたら、お知らせください。



資料・図書のご寄託・ご寄贈者
ご芳名

栗島行春 江原豊 賀川明孝
片桐一男 片桐平智 酒井シヅ
清水喜八郎 杉本茂春 竹内孝一
田中英夫 故・田畑一作 陳玉麟
塚原東吾 戸出一郎
道修町文書保存会 中山沃
長門谷洋治 奈倉道治
滑川市博物館 新美作博 西巻明彦
秤乃館 平野満 廣瀬二郎
藤沢薬品工業(株) 正橋剛二 松山一夫
宮崎惇 村井美以 村松文雄
諸岡博熊 安井洋二 山田光雄
山村好弘 和田和代史 (敬称略)
ありがとうございました

～お詫び～

『くすり博物館だより』33号の「資料・図書のご寄託・ご寄贈」の欄にて間違いがございました。深くお詫び申し上げます。訂正させていただきます。

(誤) 故・新見廣和→

(正) 故・新美廣和

とぴっくす

◆資料・図書を貸し出しました

第24回日本医学会総会 4/5～4/9

医史学展示において、くすり博物館の図書45点と資料12点、他の会場展示に図書10点とパネル1点が貸し出されました。

第96回日本医史学会総会 6/10～11

名古屋で開催とのことで、医史学展示の会場で、「愛知県に関係のある人物と出版元」の図書が出版され、くすり博物館からは76点の図書が貸し出されました。

特別展 人体の世界 9/15～11/26

「解剖学の世界」コーナーへ、華岡青洲画像や華岡流外科道具一式など4点が貸し出されました。

ETHNOGRAPHIC MUSEUM 10/5～12/31

ベルギーのアントワープ市にあるこの博物館で行なわれる東洋医学の展覧会に「解体新書」、はしか絵、「宮崎或解剖図」など19点が貸し出されました。

パネルの貸し出しは次の通りでした

豊田市健康フェア 5/20～21

師勝町健康福祉フェスティバル 6/25

一宮市民健康まつり 9/3

宮城県薬種商協会展示 9/8, 10/10

宮城県薬草教室 9/20

◆楽しかったね！夏休みこども教室

7月29・30日と合わせて30名の皆さんが、カレー作りとポマダー作りをしました。自分たちで粉にしたスパイスをひとつまみ入れ、おうちのとはひと味違うカレーに舌鼓をうちました。ポマダーも夏休みが終わる頃には乾燥し、いいにおいを漂わせ始めたことでしょう。



◆『秤乃館』より

陶製の鍾と分銅をいただきました

はかりの鍾（おもり）や分銅は、重さを正確にするために金属で作られていました。しかし、第二次世界大戦中、飛行機や武器を作るために一般家庭から金属を供出し、代わって陶製のものが登場しました。陶器は焼き上がると縮み、重さが変わってしまうので、正確な重さのものを作り上げるには大変な苦労があったようです。珍しいものをご寄贈いただきました。（写真左奥が鍾、他は分銅）

◆OTC製品が新しくなりました

大衆薬工業協会加盟の各社より、最新のOTC製品をご提供いただき、展示いたしました。皆様の健康管理のご参考にご利用ください。

◆東海三県博物館協会で発表

10/4、同協会の交流研修会に参加し、当博物館の災害対策について事例発表を行ないました。博物館は大勢の方々が集まる場所ですので、お客さまと資料の安全のための改良は、随時行っております。今年は吊り下げである看板について、看板裏側の金具の補強と落下防止金具の導入を行い、その報告をしました。